

カルシュ博士の情報提供を

しまね

かつて旧制松江高校(現島根大)で数多くの著名人を育てたドイツ人哲学者、フリッツ・カルシュ博士(一八九三—一九七一年)の足跡をたどろうと、東京医科歯科大の若松秀俊教授(五)が資料収集に情熱を燃やしている。大きな功績を残しながら、時とともにも忘れ去られた博士について若松教授は「フカディオ・ハーンよりはるかに長く松江に滞在した博士が公平に顕彰されないのは不幸なこと」と、情報提供を呼び掛けている。

若松教授がカルシュ博士を知ったのは一昨年九月。出張先のドイツで偶然、博士の遺族と知り合ったのがきっかけ。興味を抱いた教授は帰国後、島根大を訪ね、関係資料などの調査を始めた。

博士は一九二五年から十四年間、旧制松江高の教壇に立ち、語学や哲学などを生徒に教えた。この中には、被爆患者の治療に生涯をささげた永井隆博士(三刀屋町出身)、元自治大臣の故赤沢正道氏

教え子を訪ね、功績を調査した若松教授は、教え子たちが博士を語るとき、涙を流す姿が忘れられない。青少年期に与えた影響は大さかったと話。

しかし、その教え子たちも既に

第2のハーン顕彰へ



フリッツ・カルシュ博士

八十歳を超えた今、ゆかりの人が元氣なうちに資料や声を集めて紹介したい、と情報提供を呼び掛けている。収集資料は本にまとめる一方、当時の住まいを資料展示館にすることも関係者に働き掛ける考えだ。

同教授の連絡先はT—1—3—8

5—9 東京都文京区湯島1の5の

45、東京医科歯科大大学院生体機

能支援システム若松研究室電話0

3—566066156660。

東京の大学教授呼び掛け

旧制松江高教師
ドイツ人哲学者